



博物館通信

春号

2018年4月発行 Vol.67



小惑星探査機「はやぶさ2」 小惑星「リュウグウ」まであと少し！

2014年12月に打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ2」が、今年の夏、目的地である小惑星「リュウグウ」に到着します。今の時点（2018年4月）で、「はやぶさ2」とリュウグウの距離は、地球と月の距離とほぼ同じ、約38万キロメートルまで近づいています。



「はやぶさ2」ミッションロゴ © JAXA

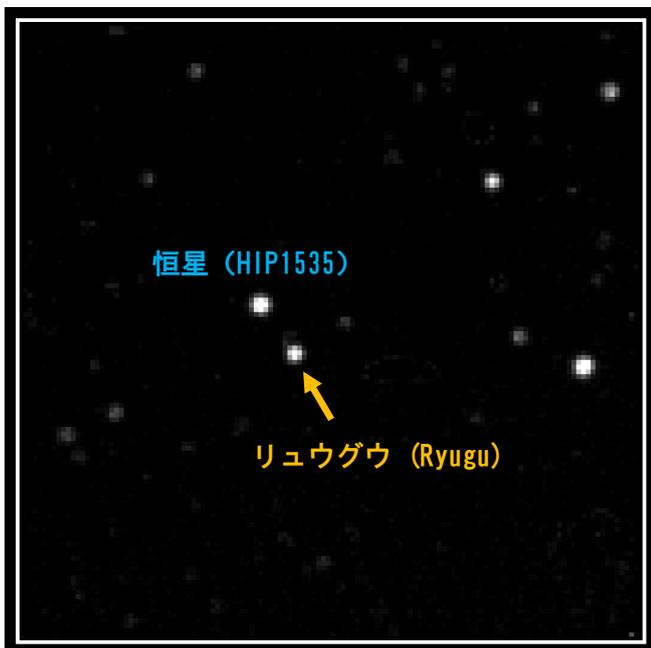
これは、いろんな「はやぶさ」でたとえてみると

- 寝台特急「はやぶさ」（東京-熊本）で144往復
- 新幹線「はやぶさ」で50日
- バイクのハヤブサでも50日
- 鳥のハヤブサが最高速で飛んで40日くらい

小惑星探査機「はやぶさ2」マスコットキャラクター「はやつー君」のTwitter haya2kun (@haya2kun)より引用

もうすぐそこまで近づいたということが分かります。

現在の「はやぶさ2」とリュウグウの距離は、はやぶさ2のホームページ<<http://www.hayabusa2.jaxa.jp/>>で見ることができます。



小惑星探査機「はやぶさ2」とは

2010年6月に地球に戻ってきた小惑星探査機「はやぶさ」の後継機。小惑星「リュウグウ (Ryugu)」まで行って、そのかけら（サンプル）を地球にもって帰ることが目的です。

小惑星「リュウグウ」のような、有機物や水が含まれていると考えられる小惑星をくわしく調べることで、地球などの惑星はどうやってできたのか、地球の水はどこから来たのか、生命のもととなる有機物はどこでできたのか、これらのなぞを解くカギとなります。

左の画像、「はやぶさ2」が撮影した小惑星「リュウグウ」
2018年2月26日撮影。このとき「はやぶさ2」とリュウグウの距離はおおよそ130万km
© JAXA/東京大学

2018 夏・火星大接近！

2018年7月31日、約2年2か月ぶりに火星が地球に近づきます。今回の接近距離は、約5,800万キロメートル。2003年に大きな話題となった火星大接近の日以来、約15年ぶりの大接近です。

この頃、赤い火星が夜空に明るく見え、望遠鏡などを使えば火星の表面の様子を観察することもできます。

今から準備して、火星の明るさや見える位置がどのように変化していくのか調べてみましょう。

■ 4月・5月の火星

火星は、5月中旬まで「いて座」、それ以降「やぎ座」にうつります。

真夜中に東の空からのぼり、明け方には南の空に見えます。明るさは、マイナス0.1等級（4月中旬）からマイナス0.7等級（5月中旬）まで明るくなります。

近くには、木星や土星も明るく見えています。

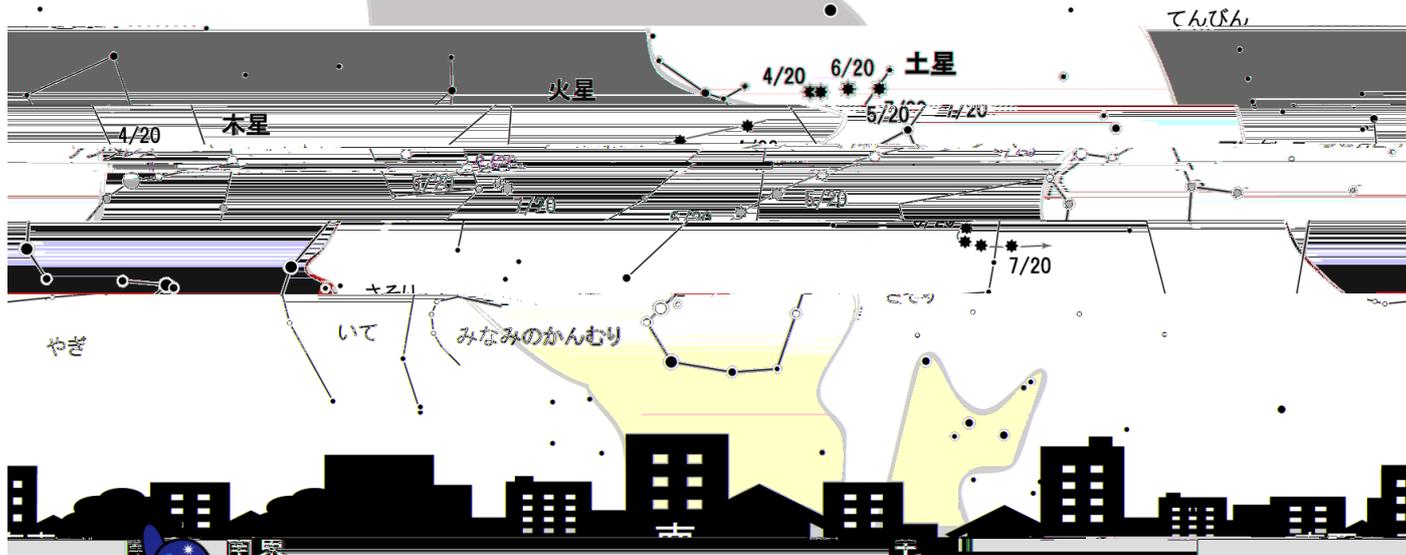


図. 5月中旬の午前2時頃の浅口市の空（6月中旬午前0時、7月中旬午後10時）
火星、木星、土星の見える位置（それぞれ各月20日の位置。火星は10日、20日、30日）。
今の時期は、夜のおそい時間にならないと見えないので、お家の人と一緒に観察してみましょう。

京都大学 3.8m望遠鏡ニュース⑤

— 望遠鏡の名前が決定！ —

昨年の10月27日～12月20日まで、京都大学3.8m望遠鏡の名前（ニックネーム）を募集したところ、全国から1000通を超える名前が寄せられました。選考の結果、

せいめい望遠鏡 (SEIMEI telescope)

と決まりました。

浅口市と京都にゆかりのある平安時代の陰陽師・安倍晴明と宇宙の生命につながる研究を行うことから選ばれました。なお、調整が進められている「せいめい望遠鏡」は、この夏に完成、8月から観測がスタートする予定です！

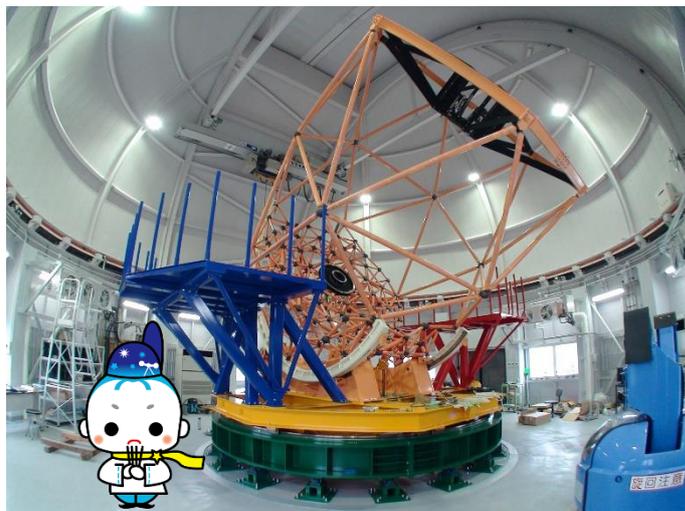


写真. 調整中の「せいめい望遠鏡」（提供/京都大学）と岡山天文博物館のマスコットキャラクター「せいめいくん」

岡山天文博物館

〒719-0232 浅口市鴨方町本庄3037-5
電話番号 0865-44-2465

